



やよい図書館



フレーズ & センテンス

「僕はちゃんとみんなを『しまって』いる。僕の中で、いつまでもみんなは僕と一緒に『響き』続ける」膨大な書物を『しまい』続ける春田家の姉弟。『しまう』ものは日本の古典、シェイクスピア、オーケストラのスコア…。桁外れの暗記力の他にも未来を見通す力、遠くを透視する力など…。常野一族の彼らはそれぞれ不思議な能力を持ちながら、普通の人の中でひっそりと暮らしている。ついで最後まで読まずにはいられない常野シリーズ3部作の1冊目の物語です。続きの2冊『蒲公英草紙』『エンド・ゲーム』もぜひ読んでみてください。

『光の帝国』 恩田陸／著 集英社文庫

今月の1冊

『チロル、プリーズ』 片川優子／著 講談社

やよい図書館では中高生による「ティーンズボランティア」という活動があります。そこでティーンズのみなさんと接していると、自分の学生時代が懐かしく思い出される瞬間があります。今回は、そんな高校時代がよみがえる本を紹介します。主人公である高校3年生のチャコは、親友のトキコから突然「結婚する」と告げられます。高校生で結婚？ 大学受験は？・・・受験勉強への焦りと、友達との距離感、同じ予備校の男友達のポンちゃんとの関係など、チャコが悩み、成長する姿がとても清々しく描かれています。ティーンズには等身大で、大人には懐かしさを抱きながら読んでもらいたい1冊です。この1冊だけでも楽しめますが、前作の『ジョナサン』もおすすめです。

Cinema library 第3回 雨月物語

『雨月物語』は、江戸時代の中期に上田秋成が書いた怪異小説です。「菊花の約」や「吉備津の釜」など、9編の物語が収められています。その中で「浅茅が宿」と「蛇性の姪」を原作として、溝口健二が監督を務め製作したのが『雨月物語』です。1953年公開ということもありまだ白黒の映像ですが、京マチ子が演じる若狭の怪しげな美しさは十分に伝わってきます。また、けなげに夫を待ち続ける宮木と若狭の対比もおもしろく見どころはたくさんあります。

映画でも原作でも、その恐怖の根源にあるものは人の強い想いです。憎しみや恨み、儲けたいという欲望、時には愛や憧れといった感情までもが恐ろしい怪異を生み出すことがある、ということを鋭く突きつけてくる物語なのです。人間がもつ執着の恐ろしさ、その普遍性を感じられるからこそ映画も原作も今なお多くの人が感銘を覚え、そして影響されているのではないでしょうか。

★『雨月物語の世界 角川選書 444 上田秋成の怪異の正体』井上泰至／著 角川学芸出版

★『21世紀版少年少女古典文学館 19 雨月物語』司馬遼太郎／監修 講談社

★『溝口健二映画読本 情炎の果ての女たちよ幻夢へのリアリズム』佐相勉／編 フィルムアート社
次回は「ぼくらの七日間戦争」をご紹介します！ お楽しみに！



親子で『おうちえほん』

Vol.1



NPO法人「絵本で子育て」センター絵本講師 のぐちりえ

◆1年間よろしくお願ひします◆

皆さん、こんにちは。NPO法人「絵本で子育て」センター所属の絵本講師、のぐちりえです。こちらのコーナーでは、“家庭で親子が一緒に絵本を楽しむこと”=「おうちえほん」の魅力について、今月号より隔月6回の連載でお届けして参ります。オススメの絵本なども紹介していきますよ。1年間どうぞよろしくお願ひします。

（「おうちえほん」とは、足立区のご家庭で流行らせたいと思っている、私の“造語”です♪）

◆パパ・ママにこそ絵本◆

私は「絵本講師」ですが、小学生男子の母親でもあります。息子が赤ちゃんの頃から始めた「おうちえほん」は今でも続けています。えっ！？ 小学生にも絵本の読み聞かせ？ ハイ♪ 絵本は、小学生にも、いいえ、中学生にも高校生にも大学生にも、お父ちゃんお祖母ちゃんにもオススメですが、子育て中の「親」にこそオススメ。絵本には子どものこと、子育ての本質みたいなものがぎっしり詰まっていて、パパ・ママの心強~い味方なんです。

『あかがいちばん』（キャシー・スティンソン／文

ロビン・ベアード・ルイス／絵 ふしみみさお／訳 ほるふ出版）

“おかあさんったら あかのこと、なんにも わかってないんだよ。”

ちょっとドキッとする女の子のことばで始まるこの絵本。ママに「赤」を教える絵本ではありませんよ(笑) 幼児期の子どもには、色々な「こだわり」があります。実際には2、3歳ごろの子どもが、この絵本のように自分の気持ちを上手に「ことば」で表現するのは難しいですね。「第一反抗期」とか「イヤイヤ期」なんてよく言われます。ある講演会で、ノンフィクション作家の柳田邦男氏が「幼い子どもは大人のように自分の気持ちを「ことば」にする力が乏しいだけ」「大人は見た目（言語表現）だけで子どもを判断してはいけない」と話していました。「ことば」の奥に隠れている子どもの思考。大人になり忘れてしまった『子ども』のこと、『子どもの心の中』のことに気付かせてくれたり、思い出させてくれるのが「おうちえほん」の時間です。そうかと言って、何でも子どもの言うことを聞いてやるわけにもいかず… ダメなものはダメ。でもそのダメも、即「ダメ！」と言うのと、ダメと言う前に『あかがいちばん』のような絵本を思い出して、「でもね…」と子どもの気持ちに寄り添い心の余裕を持って向き合うのとでは、その日の親子関係や時間の流れ方も変わってくるのではないかしら。歩み寄れるのは親の方ですものね。



◆“絵本講師”って？◆ そう思われた方も沢山いらっしゃると思いますので、ちょっとご紹介を♪私が受講した「絵本講師・養成講座」は、NPO法人「絵本で子育て」センター主催の《子育てをするにあたり、いかに絵本の読み聞かせが必要かを学び、それを語り伝えることができる人材を育成するための講座》です。今年度で11期を迎きました。主な活動は、図書館や保育園、幼稚園、小学校、子育てサークルでの「絵本講座」で、子育て中のパパ・ママや職員の方、先生方へ“絵本で子育て”をお伝えしています。「絵本講座」は区内数カ所の図書館で定期・不定期に開催しています。是非足を運んでくださいね。